

今から130年前の1886(明治19)年、信濃川下流に初代萬代橋が架かりました。

当時はまだ別の町だった新潟町と沼垂町を結んだ木造の橋は、人々の暮らしを支え、まちの姿を変えていきました。

にいがたと萬代橋の130年を4回シリーズで振り返り、にいがたと橋の未来をともに考えましょう。この先の未来も、萬代橋とともに。

近代技術の粋

生まれ変わった萬代橋

三代目萬代橋を象徴する言葉として「用・強・美」があります。これは、人々の生活を支える機能、災害にも耐える強さ、そして風景と調和する美しさを併せ持つことを意味しています。時代の大きな変化を経て今も重要な役割を担い続けています。

新潟を支える萬代橋、力強さと美しさ

三代目萬代橋、誕生

「東洋」の大工事」といわれた大河津分水路開削が1922(大正11)年に完了し、萬代橋付近の川幅は狭まりました。このことは三代目萬代橋の構造に大きく影響します。必要な橋の長さは二代目の半分以下となり、工費を低く抑えられることから、鉄筋コンクリート橋への架け替えが実現可能なものとなります。1925(大正14)年、当時の管理者である新潟県は萬代橋の架け替えを決定しました。

自動車社会の幕開け

三代目萬代橋架橋は1929(昭和4)年。自動車社会が幕を開けると、現在の万代地区と古町を結ぶ萬

宅全半壊8600棟、床上浸水9474棟。警察庁調べでその真価が発揮されます。当時、市街で信濃川に架かっていたのは下流から萬代橋、八千代橋、昭和大橋の3本でした。そのうち地震当日歩いて渡ることができたのは萬代橋だけ。3日後には応急復旧を終えて車両を通し、救援と復旧を支えました。



萬代橋を徒歩で行き交う被災者(写真奥が新潟駅)

工費削減が生み出した美

代橋の役割と重要性は飛躍的に増大しました。自動車交通量は年々増加、三代目架橋前は日々700台だったのに対し、1985(昭和60)年には6万台を超え、柳都大橋架橋までの17年間、7万台前後の交通を支えました。昭和初期から、戦後、高度経済成長期を経て、87年もの間まちの発展の一翼を担いました。長寿となった萬代橋の機能を確実にするために常にきめ細かい維持管理が行われています。

震災に耐えた萬代橋

萬代橋は、関東大震災の教訓を生かし当時の最高水準の技術を尽くして設計された橋です。1964(昭和39)年の新潟地震(住

算機しかない時代にわずか5カ月で完成させました。正子重三は空気潜函工法を指揮し、現在の強度につながる確かな基礎工事を成功させました。田中、福田、正子はいずれも日本の土木界に大きな足跡を残した人物。彼らが結集し、関東大震災からの復興で蓄えた経験、技術と情熱を余すところなく発揮して造り上げたのが萬代橋なのです。



アーチは中央の最も広いところで42.4メートル。当時日本最大。アーチの頂点を極力薄くし、アーチの大きさを両岸に近づくと小さくすることで安定感とリズム感を与えている

三代目萬代橋

data



全長/約307.4m(新潟地震後306.9m)
幅/22m
竣工/1929(昭和4)年8月23日

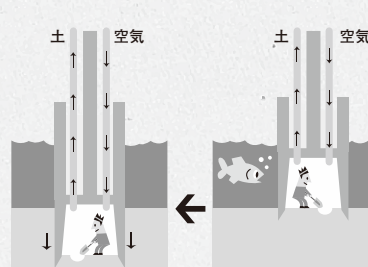
萬代橋を一部とする国道は、7号、8号、17号、113号と350号の5路線です。表示では最も数が小さい国道7号とされています。

当時の最先端技術導入

川底での空気潜函工事の様子



箱の中にコンクリートを詰めると橋を支える基礎となります。三代目萬代橋の基礎は5階建てビルに相当する大きさで、信濃川の川底よりさらに下の頑丈な地盤に設置されています。



空気潜函工法(水圧と等しく圧縮した空気を送り込んで水が下がらないようにし、作業員が川底の土を掘り下げれば、箱は重さで地中に沈んでいく)

〈次回予告〉
第4回は11月3日に
掲載いたします

架橋75年を機に市民参加で建設当初の姿に復元。萬代橋は国の重要文化財に指定されます。そして下流には柳都大橋が架かりました。

日本最高峰の技術者たち



田中豊



福田武雄



正子重三

萬代橋の設計は、関東大震災からの首都復興を担い短期間で膨大な知見を積んだ日本最高峰の技術者集団、内務省復興局橋梁課によって行われました。全体の方針を決

定した田中豊は、幾多の名橋を生み出した橋梁分野の功労者。田中の下で実際の設計を行った福田武雄は当時24歳。基本設計、構造計算、作図までほぼ一人で行い、手回し計

算機しかない時代にわずか5カ月で完成させました。正子重三は空気潜函工法を指揮し、現在の強度につながる確かな基礎工事を成功させました。田中、福田、正子はいずれも日本の土木界に大きな足跡を残した人物。彼らが結集し、関東大震災からの復興で蓄えた経験、技術と情熱を余すところなく発揮して造り上げたのが萬代橋なのです。

にいがたみちコラム

街と暮らしを支え続けるために



適切な道路の維持管理は道路管理者の役割ですが、道路利用者の皆さんと一緒に施設を守っていくことも重要です。道路の異常を発見した際には「道路緊急ダイヤル#9910」(無料)へご連絡ください。

萬代橋130周年事業

初代萬代橋架橋から130年を迎える11月にむけて、新潟国道事務所、新潟県、新潟市、新潟日報社では実行委員会を組織し、写真コンテスト、シンポジウムなどの記念事業を実施していきます。詳しくは、ホームページをご確認ください。



問い合わせ先/萬代橋130周年事業実行委員会事務局(新潟日報社広告部内) 025-385-7432(平日9:30~17:30)

萬代橋130 検索

2016年9月3日(土)に掲載いたしました第2回について、一部誤りがございました。お詫び申し上げます。下記の通り訂正いたします。
【誤】安倍九二平沼垂町長 古田良治郎新潟市長 【正】安倍九二造沼垂町長 吉田良治郎新潟市長

萬代橋130周年記念シンポジウム 参加者募集中!

まちの発展を支え、見守ってきた萬代橋の歴史を振り返りながら、今後のまちづくりについて一緒に考えましょう。

2016年11月12日(土) 13:00~ 会場/新潟日報メディアシップ2F日報ホール 詳しくはホームページをご覧ください。